

大崎の地名

大崎なる地名のいわれと、沿革について、東京近郊名所図会(明治43年発行)では、「此地は白金台町に続きたる一帯の丘陵なれば、往古八ツ山より東京湾に通ずる入海に対する曲角なりしに因り、大崎の名を得しものにあらざるか。素より確証とてはなけれども、地勢を觀て考るにかくあるべしと思はる。」と記している。また、市郡併合の際に出された「市郡併合記念大崎町誌」(昭和7年)には、「大崎町の中心をなせる一体の地は品川湾の湾入せる浅瀬にして、その発達は中古の事に属するものではあるまいか。或いはこの入海に七個の岬あり。その内最も大なるを大崎と呼たりとの説があり、これを立証するために、現在せる袖ヶ崎、鎗ヶ崎、霞ヶ崎、千代ヶ崎、森ヶ崎等の名あぐれど、真偽俄に断じ難い。」としている。 ※この記述は、品川区教育委員会の「品川の歴史シリーズ(地名編)」から引用したものです。

大崎の地理・歴史。概要などの詳しい情報は[こちら](#)

明治44年発行の地図は↓のページにあります。

